

除染草地の簡易更新後は標準施肥を行いましょ

【1 成果の概要】

- 除染草地の簡易更新時に土壌改良材としてケイ酸カリを利用したところ、施用量（土壌中交換性カリ含量 20、30、40mg/100g 矯正量）による差はほとんど見られませんでした。
- 更新時にケイ酸カリを施用した上で、翌年から採草地用の県標準施肥（年間施肥量 N : P : K=20 : 10 : 20kg/10a）を行うことにより、牧草中放射性セシウム（RCs）濃度は抑制され、テタニー比も概ね指標値の 2.2 以下と適正な水準となります（図 2、3）。

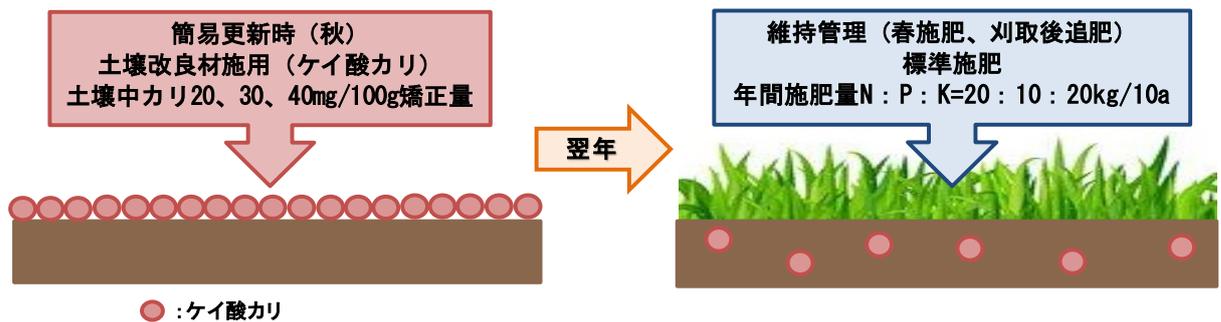


図1 除染草地の簡易更新時及びその後の施肥管理

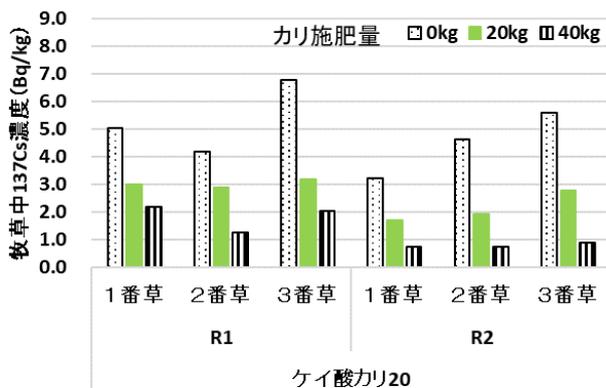


図2 牧草中 137Cs 濃度 (水分 80%換算値)

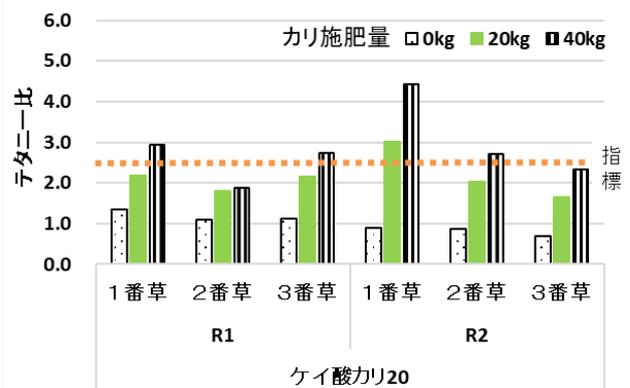


図3 テタニー比

【2 留意事項】

- (1) 試験圃場の土壌は黒ボク土、土壌中の RCs 濃度は 72.3Bq/kg です。
- (2) 除染は平成 24 年秋にディスクハロで、本試験は平成 30 年秋にディスクハロ及びロータリを用いて表層攪拌を行いました。
- (3) カリ施肥量が少ないと、土壌中交換性カリ含量が低下し、再び牧草中 RCs 濃度の上昇が懸念されることから、必ず標準施肥を行いましょ。
- (4) 牧草を家畜に給与する前に飼料成分分析を行って牧草中カリ濃度を確認し、適正な飼料設計に基づいて給与しましょ。

※本研究は、農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術緊急展開事業 JPJ000418」による成果です